



2023年12月にグループCEOに就任しました。

力強くSMBCグループを導いてきたリーダーとの突然の別れに我々はただただ驚き、戸惑いと深い悲しみに包まれました。しかし、いつまでも下を向いてはいられません。太田前グループCEOの遺志をしっかりと引き継いで前に進んでいくことこそが、彼がいま我々に最も望むことだと確信しているからです。

新しい体制の下でも、2023年4月から始まった現中期経営計画「Plan for Fulfilled Growth」の方向性は変わりません。幸せな成長の時代への貢献に対する太田の強い思いを込めたものであるとともに、策定時にグループCFO兼グループCSOであった私も含め、経営陣が何度も議論を重ねた上で定めた戦略であり、ここに掲げた施策を今後もしっかりと進めていきます。

不透明感が漂う業務環境の中でスタートした2023年度でしたが、この半年を振り返ると、想定していたよりも底堅い景気や、金利・為替・株価等の相場動向等、結果として金融業界全体に追い風が吹く環境になったと思います。

特に、上期の業績においてはすべての事業部門で前年同期比増益を確保し、中期経営計画の初年度を力強くスタートすることができました。連結業務純益は7,709億円、親会社株主に帰属する中間純利益は5,265億円と、ともに2022年度に更新した上期の過去最高益をさらに上回る水準となりました。こうした高い進捗を踏まえ、好調なビジネスに加えて円安や株高といった外部環境や一時的要因も織り込んで、親会社株主に帰属する当期純利益の通期目標を期初目標対比1,000億円の上乗せとなる9,200億円に上方修正しました。これは、過去最高益を10年ぶりに大きく塗り替えるとともに、5月に発表した中期経営計画の

目標を初年度で達成する水準であり、下期にかけて外部環境の見通しや我々の実力ベースの収益力をしっかり精査した上で、この先の中期経営計画期間においてもさらなる利益成長を追求していきます。

さらに、この1,000億円の業績予想の上方修正を踏まえ、株主還元も強化することとしました。「配当を基本に、自己株取得も機動的に実施する」という我々の株主還元の方針は変わりません。配当については、累進的配当方針に則り、持続可能な収益水準に対して配当性向40%を維持することを前提に、2023年度の一株あたり配当予想を250円から270円に引き上げることとしました。また、余剰資本を株主の皆さまに機動的に還元するという方針の下、自己株取得については、1,500億円の取得枠を設定しました。

各事業部門・グループ会社が質の伴った成長に向けた施策を進めていくことで、我々の実力ベースの収益力も着実に高まっていると感じています。この良いモメンタムを維持しながら、さらなる高みを目指して中期経営計画の取組を一層加速していきます。国内では、Oliveを軸としてリテールビジネスの徹底的なデジタル化を進めるとともに、資産運用立国に向けた大きな動きも捉え、今後来る国内金利の上昇を見据えてビジネスモデル改革を進めていきます。ホールセールビジネスにおいては、企業活動が活発化し事業再編やDX・GX等の前向きな資金需要が続いていく中で、しっかりとお客さまのニーズを捉えて貸出を伸ばしながら、手数料ビジネスも強化し、盤石な事業基盤を築いていきます。海外においては、戦略上重要性の高い証券ビジネスの強化に向けてJefferiesとの連携をさらに深化させることで先を行く競合他社との距離を詰めていくとともに、アジアのマルチフランチャイズ戦略の下で出資したインドネシア・インド・ベトナム・フィリピンの現地金融機関の成長を支えシナジーを創出し、利益につなげていくことで中長期的な成長ドライバーに育てていきます。

私が先頭に立って、SMBCグループの従業員が心を一つにして足元の困難を乗り越え、これからも前を向いて進んでまいります。

皆さまにおかれましては、今後ともなお一層のご理解、ご支援を賜りますよう、お願い申し上げます。

2024年1月

三井住友フィナンシャルグループ

執行役社長（代表執行役）グループCEO

中島 達